

Catch the WAVES!

新潟県立佐渡中等教育学校

学校だより 令和5年度 7月号①

HP: <http://www.sado-ss.nein.ed.jp>

校長先生 全校集会 講話 令和5年7月25日

新年度がスタートして4ヶ月、アフターコロナの4ヶ月間とも言えるでしょう。コロナ禍の教訓を生かし多様性と柔軟性を踏まえ、様々な変化への対応と新しい学びへの進化をお願いしています。振り返りと修正もしていきましょう。

まずは先日公表された、佐渡中等教育学校がR8(2026)年度生徒募集を停止する話です。創立16年目を迎え Catch the WAVESの校是のもと、海外研修や能楽をはじめとした多岐にわたる学校行事、東京大学など難関大学をはじめ生徒の希望に応じた進路実績で学校の魅力化・特色化を図ってきました。しかし、少子化の加速は厳しく定員割れが続いてきたことから生徒募集が停止となり、本当に、本当に残念です。引き続き皆さんの頑張りに期待していますし、保護者の皆様の御理解、御協力をお願い申し上げます。私も校長として島内全小学校を回りながら児童・保護者の皆さんに中等の魅力をお話しています。各校長先生方から皆さんの様子を気に懸けていただき、頑張っている様子を伝えています。

小規模化していく本校ですが、コンパクトであることはかえって強みであると私は考えます。面倒見のよい先生方のもと、生徒個々の学習面や生活面で目が行き届き、努力次第で学習成績や部活動等で上位をめざしたり、様々な場面でリーダーといった責任ある役割を果たしたりする機会が多いからです。その経験の積み重ねが、人として大人になる上での自信となり、自己肯定感も高まると考えています。だからこそ、このアットホームな環境が中等の良さであり他校にはない魅力だと自負しています。R6年度(現小6年生)、R7年度(現小5年生)の入学者選考検査で後輩たちがまだまだ入ってきます。私たちは、皆さんが卒業するまで安心して学校生活を送れるようにサポートし続けていきます。

さて、今日は配付された『進路の手引き』巻頭言でも触れた「『覚悟と決断』～天職と出会うために～」について話をします。「不易と流行」という言葉を知っていますか。これは「いつまでも変化しない本質的なものを忘れない中にも、新しく変化を重ねているものをも取り入れていくこと」、また「新味を求めて変化を重ねていく流行性こそが不易の本質であること」という意味です。先程、学校が変わり、あるいは生まれ変わっていく話をしました。とはいえ、生徒の夢の実現のための熱い思いは、皆さん同様私たちも変わりません。しかし新たな特色、魅力を発信し柔軟に進化・発展していかなければなりません。これから少し昔の、あえて私の個人的な話もしますが同じ立場になって考えてくれたら嬉しいです。

約40年前の高校時代を振り返ると、今ほどきめ細やかな進路指導ではなく、キャリア教育(職業観・勤労観育成)という言葉もなかったと記憶します。当然タブレット等でネット検索はできず、大学進学に関する冊子も進学者から無償(広告付)配付されることもなく、書店で立ち読みをして大学の特色に惹かれ購入したのを今でも覚えています。余談ですが、皆さんもよく耳にする大手通信教育・出版社(株)ベネッセコーポレーションは当時福武書店と呼ばれ、もともとは学校前や家庭訪問での教材販売や生徒手帳を制作、Z会は(株)増進会出版社と呼ばれ、私もお世話になりましたが通信添削で有名な会社でした。

新潟県の今春の大学等進学率が53.8%で2年連続50%を超えました。約30年前は30%台で全国最下位クラス、大学受験志望者もそれほど多くなく、一世代上は受験地獄と呼ばれ、1浪、2浪は当たり前で予備校も多かった昭和の時代。令和の現在は、生成AIが過去問分析した良問で演習ができ、YouTubeやオンライン授業でいくつでも優れた講義が学べます。また、少子化も進み女子大の閉学や共学化、大学の定員割れもあり、選り好みしなければ人数の点では大学全入時代が到来して、努力次第でいかようにも進路実現が可能になってきました

さてその当時、親友と夢を熱く語り合ったものでした。彼は工学の道へ、私は教育の道へとお互いの夢に向かって一生懸命、切磋琢磨しました。受験を控え私は可能であれば、と高校入学当初からの憧れであった国立大学教育学部の推薦入学を希望しました。ところが、その親友も私と同じ志望校へ急遽進路変更、校内推薦枠は1人。優秀な彼は見事推薦され合格しました。何とも言えない屈辱、挫折、そして寂寥感。それでも心から祝福しました。私に一般受験で対応できる実力があらずさえよかったです。(本音は悔しくて、悔しくて、涙)

翌年、全くレベルの違う話ですが、関西のとある高校で同じようなことが起こります。一人は早稲田大学進学を希望、もう一人は憧れのジャイアンツ入団を熱望。桑田と清原。皆さんの世代ではピンと来ないかもしれませんが、結果は御承知のとおり。桑田は早稲田大学進学を公言しながらジャイアンツからドラフト1位指名され、大学進学を断念し入団。清原の、ジャイアンツから指名されなかった直後の記者会見と、西武ライオンズ入団後、ジャイアンツを倒して日本一になった時のあの涙(正確には優勝目前から溢れる涙、アルバイトしていた電気店の当時流行の画面テレビ全部が清原の表情アップで鮮明に記憶)は他人事とは思えず、もらい泣きました。

その後1浪して志望外大学に入学したものの諦めきれず、仮面浪人して再挑戦しましたが受験



に失敗。小学校5年からTVドラマ「熱中時代」で憧れ続けた、水谷豊演じる「熱中先生」になりたいという「小学校教員」の夢を諦めることを決断しました。物事が順風満帆なら、生まれてからずっと新潟県内で生活し小学校教員をしていたでしょう。英語が好きでたまたま私大の滑り止めで合格し入学した大学の2年からは、大学1年分を取り戻すべく気持ちを切り替え、英語の教員をめざすために「英語」により深く携わり大学内外で交流、また、海外の人々や異文化にも多く触れ新しい発見で見聞を深め、視野が広がったと実感しました。卒業旅行の約1か月のアメリカ人旅も「日本」を客観視させ自分を大きく成長させてくれました。高校、大学ともに志望外でしたが「必ず見返してやる」という覚悟があったからこそ今があるのではないかと考えています。

教員のスタートは東京の私立女子中高一貫校で、いずれ新潟に戻りたいと思っていましたが教員としての喜びと苦悩が交差し、なかなか踏ん切りがつかせませんでした。5年勤務後、縁あって妻と出逢い結婚を決意し新潟に戻る決断をして退職。新潟で公立高校教員の採用に向け28歳でゼロからのスタートとなりました。常勤講師をしながらでしたが2度の採用試験に不合格。家計を支える収入や貯金にも限りがあり3度目は背水の陣、退路を断って無職を決意。妻にはパートの掛け持ちをお願いし、私は一日中、図書館にひきこもり勉強をしました。3度目の正直か、神様が味方をしてくれたのか、合格して31歳で採用されました。この苦労が報われ、教員としてふるさと新潟で教壇に立てる喜びと達成感は言葉には言い表せない程でした。



以上教員をスタートして紆余曲折の約35年、バブル時代前後の東京の私立学校と新潟の公立学校との様子の違いも経験できました。時代も社会も激変の今、教育界は課題山積であり、生徒や保護者の様子も少しずつ変化してきています。教諭から教頭を経て、今、校長として、改めて「人を育てること」、「将来、社会に求められる人材の育成」、そして「教員の育成」等について自問自答の日々です。キャリア教育の観点から言うと、「プロ」と呼ばれる人は例えば、①健康管理を含め、自己管理ができています。②時間厳守や挨拶は言うまでもない。③俯瞰的に先を見据えてのプランと戦略と目標を設定している。④前例踏襲や現状維持は後退と同じで、様々な発想とアイデアで改善していく姿勢を持ち続けている。⑤最善を尽くすことは当然だが、最悪を想定した危機管理も忘れていない。⑥相手の立場で根回し、気回し、気遣いも心得て、それがお節介や大きなお世話と思わせない言葉遣いや人当たりが最高のサービスであると自覚している。⑦チームや組織であれば、お互いが寄り添うように和をもって同じベクトルの方向に突き進もうと心掛け、それが最高のパフォーマンスとして結実している…等々。謙虚な姿勢で見習っていききたいものです。

半生を振り返ると、人生の節目・ターニングポイントでは、試練、運命だと思い、あえて辛く苦しく困難な道を選択してきました。また、そこでの一生を左右する出逢いや人脈を大切にしてきました。今、つくづくその選択に間違いはなかったと確信するとともに、出逢った多くの方々に感謝しています。皆さんにもその夢をつかむチャンスを逃さず、「天職」となる、一生を賭ける仕事、心熱く打ち込める仕事を手に入れてほしいです。

教員として進路指導に携わるとき、学校名や企業名より「何を一生の天職・生きがいとしていくか」を強調し、学校生活を通じて一生の仕事につながる学問や情報をしっかりと見極められるよう指導してきました。それは夢を実現させることの難しさを私自身、身をもって経験しているからです。「教員は人づくり」、だからこそ教員という仕事は自分の生き様をさらけ出しながら生き方を示し、時には道標となり、生徒の夢を叶える伴走者であることが職業だと考えています。教員不足と言われる今だからこそ、やりがいのある職業ではないかと考えています。

「働くということ」は「生きがい」、「やりがい」であり、「生計を立てること」、「お金を稼ぐこと」でもあります。TVドラマに影響を受けて「天職」だと思い教員を選んだ者もいれば、YouTuberをはじめSNS等によるインフルエンサーが人気職業として象徴されるように、苦労もせず（そんなこともないのでしょうか）広告収入を得て一攫千金を手にしようとする者もいます。多種多様な職業が世の中にはありますが、本来人間が行っていた職業がAIにより取って代わり淘汰されてきています。先行き不透明で正解がない時代、「天職」を見つけてほしい一方で、「転職」を繰り返して好条件を求めていくことも正解かもしれない世の中になってきました。

しかし、こうも考える。もし、その夢や天職を見極めることができなかったとしても、また、自分の第一志望の道に進むことができなかったとしても、そこから自分が全く考えもしなかった新しい道が始まります。そして、その道は自分が知らなかった新しい世界、新しい将来へと続いていきます。全ては皆さん次第です。その覚悟さえあれば皆さんの決断はきっと正しい。

今日は、①R8(2026)年度の生徒募集停止を踏まえ、コンパクト化する佐渡中等の強みを生かした環境で6年間卒業まで頑張してほしいということ、②「不易と流行」を踏まえ、私の半生を振り返り、いつの時代も挫折を乗り越え、覚悟と決断で「天職」にめぐり逢ってほしいということ、以上2つの話をしました。

全校生徒一人一人が中等6年間の通過点を歩んでいます。「6年間、中等で学んで良かった」と、卒業時に思えるように、努力を重ね困難を乗り越え、逞しく成長して、一人一人の「大いなる夢」の実現を心から期待しています。

さあ、君たちはどう生きるか。なんとかなる？いやいや、なんとかならないぞ、なんとかなるのです。

それでは、明日から夏休みです。夏休み明けは期末考査2週間前となります。先を見据え、自分自身と向き合い、将来設計を思い描いてみてください。そして、計画的な学習を行い、事故や怪我がないよう健康で充実した過ごし方をして、夏休み明けにまた元気に会いましょう。



